

令和3年度 第3回学校評議員会兼学校関係者評価委員会 記録

1 日時 令和4年2月28日(月)10時10分から11時45分まで

2 参加者 評議員 和久田勝也 様(浜名学園組合事務局長)
柴田 詩子 様(湖西市民生委員主任児童委員)
辻村文美子 様(湖西市教育委員会学校教育課指導主事)
疋田 隆 様 (地域代表)
原田 優子 様(プライムアースEVエナジー株式会社)
※リモートで参加予定だったが不具合のため、後日御意見をいただく。
学校関係者 校長、副校長、事務長、小主事、中主事、高主事、
総務課長、教務主任、PTA会長<欠席>

3 開会の言葉(副校長)

4 校長挨拶

- ・7日に予定していたが、コロナの対応で難しかったため、日程を変更させていただいた。コロナの感染状況について、本校でも陽性者は出てきているが広がってはいない。引き続き感染症対策を丁寧に行っていく。
- ・令和4年度より学校運営協議会となり、学校外部の御意見をより取り入れていくようになる。今回も忌憚のない御意見を伺いたい。

5 学校評価より

(1) 成果と課題

(副校長)・令和3年度学校経営報告書(自己評価)、学校評価集計、保護者アンケート集計より、成果目標と達成状況、評価の説明。

(小主事)・人権については、強めな言葉掛けになってしまうところがあったため、分かりやすい言葉掛けにしていくことを心掛けていきたい。

・学校環境を生かした取組としては、青空ロードやビオトープなどでの活動、高等部生徒とのつながりなど特色のある学習活動ができた。

・知肢連携では、コロナ禍で難しい面もあったが、学習発表や行事への取組で学年・ブロック内でつながりをもつことができた。

・交通安全教室で地元の方への挨拶や停車していただいた方へのお礼、待機場所を提供してくださっているお宅へのお礼状など、地域の方との関わりをもつことができた。

(中主事)・人権については、友達のよいところを発表し合う中で具体的な言葉で伝え合うようになり、自己肯定感や他者理解につながった。

・学校環境を生かした取組としては、学校周辺の避難路やごみ集積場などの調べ学習を行い、地域との関わりをもつこともできた。

・知肢のつながりは、学年で意図的に活動の場を設ける中で、共に活動したり応援や手助けをしたりするなど、互いに理解を深めることができた。場を設けるだけでなく、綿密な計画や情報共有が課題である。

- ・ごみ処理場や小売店、テニスクラブなどで、実際に地域で活動をするのが良い経験にもなり、逆に地域に子どもたちや学校を知っていただく機会となった。
- (高等部) ・作業報告会や実習報告会、深め合う会などを通して、情報共有や互いに認め合うことができた。
- ・作業学習で学校周辺の環境整備や手筒花火、陶芸、ビルメンテナンスなどの専門家に直接指導を受けるなど地域資源の活用ができた。委託作業で協力していただいた事業所やハローワーク、市役所など、地域とのつながりのある学習ができた。
- ・知肢の直接的なつながりはコロナ禍で難しかったが、作品を紹介し合うことができた。また、委員会活動を通して行事に向けた準備を行うことができた。
- ・高等学校と zoom や動画を通しての交流ができた。

(2) 質疑応答、意見交換

(委員A) ・作業製品の販売を期待していたが、コロナの関係でなくなってしまい残念だった。出掛けていき直接話をしたりお金のやり取りをしたりすることはとてもよい経験になる。回覧を回して楽しみにしていた。

(委員B) ・1年間のお礼も兼ねて、この機会に校内を参観し、学校への理解が深まり感謝している。校長先生のリーダーシップのもと、全職員で PDCA サイクルに基づき日々教育活動をしていることに感心している。

- ・コロナ禍で地域住民と関わっていくこと(with コロナ)が今後の課題である。

(委員C) ・小中学校も地域に出ることができず、校内でも活動が制限された1年だった。ICT 機器を使った学習では、コロナ禍で登校できない児童生徒だけでなく、不登校の児童生徒にも、健康観察やコミュニケーションをとるなど簡単にできることから活用をしている。

- ・研修会への参加ができない状況であったが、zoom での研修でグループワークもできるようになり、研修を受ける機会が増えた。

- ・支援学級の児童生徒が増加、肢体不自由学級へのニーズも増えている。ノウハウを教えていただけたらと思っている。

→(副校長) ICT 機器の活用により、子どもたちが画面によく注目しており、実際に教員が行うのとは違った楽しみ方や発見があることを感じた。ICT の実践を小中学校から学ぶ機会があるとよい。機器が整備されたばかりであるため、次年度は力を入れていきたい。特別支援教育については、本校から出向っていく。

(委員D) ・学校でやっていることも、まとめ方も素晴らしいと感じる。自分たちも来年度に向けて計画を立てている時期なので頑張りたい。

- ・初日の出を見に、青空ロードを妻と歩いた。とてもきれいに整備されていて感心した。

→(副校長) 職員、高等部生徒が青空ロードを整備している。枝や葉を中学部生徒が片付けるのを楽しいと感じて取り組む様子も見られた。

6 学校運営協議会について
校長より概要説明

7 次年度の学校経営計画案について

(1) 学校経営計画の重点について

校長より計画案の説明

現在、学部・分掌等でも検討している最中である。

(2) 意見交換

(委員D)・組合立からスタートした学校だが、県立に移管してから地域とのつながりが以前に比べて希薄になってしまったこともあるかと感じる。コロナ禍で祭りや防災訓練などができなかったが、今後はそれを取り戻していきたい。

(委員C)・3年間、委員を務めて学校の温かさを感じた。それがスローガンや校章にもあらわれている。

(委員B)・経営計画案には、課題が具体的な言葉として盛り込まれている。

・保幼小中高との交流が進んでいくとよい。以前、保育園で高等学校柔道部の生徒に園児が投げてもらったことがあり、とてもよい経験だった。縦のつながりも大切にしたい。

(委員A)・学校運営協議会に「地域とともにある学校運営」という言葉があるが、会長など地域の人たちとの打ち合わせが必要になってくる。地域でやっていることをもっと取り入れてもよいのではないか。製品の販売は年に2回くらいあるとよい。

・製品を色々なところに見に行くとよい。子どもたちの作った物はぬくもりがある。コロナが収まったら是非出掛けてほしい。

→(校長) アイデアをたくさん取り入れたい。

→(委員A) 購入した物を見ると子どもたちのことを思い出す。色々な店の物を見るとヒントがある。アイデアを出し合ってよい物を作ることができるのではないか。道具の扱いなど気を付けてやってもらいたい。

8 お礼の言葉(校長)

・いただいた御意見を来年度の参考にさせていただく。

・リモートでは御迷惑をおかけして申し訳なかった。原田様の御意見は、皆様に後日お知らせをする。

9 閉式の言葉(副校長)

◎後日、いただいた感想・御意見

(委員E)

・読書活動について、本を読むと言葉が増えるのでとても良い。また、読み聞かせで、人前に出て話すことに慣れておくと、人前に出ることが得意になる。

・地域との関わりについて、以前はどうだったのか。

→(副校長) 以前は直接的な関わりがあった。今年、間接的な関わり方を模索してきた。来年度も直接でなくても関わることを探していきたい。